

キリストの終末預言・空中擧

○マタイによる福音書 第24章

- 01: イエスが宮から出て行こうとしておられると、弟子たちは近寄ってきて、宮の建物にイエスの注意を促した。
- 02: そこでイエスは彼らにむかって言われた、「あなたがたは、これらすべてのものを見ないか。よく言うておく。その石一つでもくずされずに、そこに他の石の上に残ることもなくなるであろう」。
- 03: またオリブ山ですわっておられると、弟子たちが、ひそかにみもとにきて言った、「どうぞお話しください。いつ、そんなことが起るのでしょうか。あなたがたまたおいでになる時や、世の終りには、どんな前兆がありますか」。
- 04: そこでイエスは答えて言われた、「人に惑わされないように気をつけなさい。
- 05: 多くの者がわたしの名を名のって現れ、自分がキリストだと言って、多くの人を惑わすであろう。
- 06: また、戦争と戦争のうわさを聞くであろう。注意していなさい、あわててはいけない。それは起らねばならないが、まだ終りではない。
- 07: 民は民に、国は国に敵対して立ち上がるであろう。またあちこちに、きんが起り、また地震があるであろう。
- 08: しかし、すべてこれらは産みの苦しみの初めである。
- 09: そのとき人々は、あなたがたを苦しみにあわせ、また殺すであろう。またあなたがたは、わたしの名のゆえにすべての民に憎まれるであろう。
- 10: そのとき、多くの人がつまずき、また互に裏切り、憎み合うであろう。
- 11: また多くのにせ預言者が起って、多くの人を惑わすであろう。
- 12: また不法がはびこるので、多くの人の愛が冷えるであろう。
- 13: しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われる。
- 14: そしてこの御国の福音は、すべての民に対してあかしをするために、全世界に宣べ伝えられるであろう。そしてそれから最後が来るのである。
- 15: 預言者ダニエルによって言われた荒らす憎むべき者が、聖なる場所に立つのを見たならば(読者よ、悟れ)、
- 16: そのとき、ユダヤにいる人々は山へ逃げよ。
- 17: 屋上にいる者は、家からものを取り出そうとして下におりな。
- 18: 畑にいる者は、上着を取りにあとへもどるな。
- 19: その日には、身重の女と乳飲み子をもつ女とは、不幸である。
- 20: あなたがたの逃げるのが、冬または安息日にならないように祈れ。

- 21: その時には、世の初めから現在に至るまで、かつてなく今後もないような大きな患難が起るからである。
- 22: もしその期間が縮められないなら、救われる者はひとりもないであろう。しかし、選民のためには、その期間が縮められるであろう。
- 23: そのとき、だれかがあなたがたに『見よ、ここにキリストがいる』、また、『あそこにいる』と言っても、それを信じるな。
- 24: にせキリストたちや、にせ預言者たちが起って、大いなるしるしと奇跡とを行い、できれば、選民をも惑わそうとするであろう。
- 25: 見よ、あなたがたに前もって言うておく。
- 26: だから、人々が『見よ、彼は荒野にいる』と言っても、出て行くな。また『見よ、へやの中にいる』と言っても、信じるな。
- 27: ちょうど、いなづまが東から西にひらめき渡るように、人の子も現れるであろう。
- 28: 死体のあるところには、はげたかが集まるものである。
- 29: しかし、その時に起る患難の後、たちまち日は暗くなり、月はその光を放つことをやめ、星は空から落ち、天体は揺り動かされるであろう。
- 30: そのとき、人の子のしるしが天に現れるであろう。またそのとき、地のすべての民族は嘆き、そして力と大いなる栄光とをもって、人の子が天の雲に乗って来るのを、人々は見るであろう。
- 31: また、彼は大きなラッパの音と共に御使たちをつかわして、天のはてからはてに至るまで、四方からその選民を呼び集めるであろう。
- 32: いちじくの木からこの譬を学びなさい。その枝が柔らかになり、葉が出るようになると、夏の近いことがわかる。
- 33: そのように、すべてこれらのことを見たならば、人の子が戸口まで近づいていると知りなさい。
- 34: よく聞いておきなさい。これらの事が、ことごとく起るまでは、この時代は滅びることがない。
- 35: 天地は滅びるであろう。しかしわたしの言葉は滅びることがない。
- 36: その日、その時は、だれも知らない。天の御使たちも、また子も知らない、ただ父だけが知っておられる。
- 37: 人の子の現れるのも、ちょうどノアの時のようであろう。
- 38: すなわち、洪水の出る前、ノアが箱舟にはいる日まで、人々は食い、飲み、めとり、とつぎなどしていた。
- 39: そして洪水が襲ってきて、いっさいのものをさらって行くまで、彼らは気がつかなかった。人の子の現れるのも、そのようであろう。
- 40: そのとき、ふたりの者が畑にいと、ひとりを取り去られ、ひとりに残されるであろう。
- 41: ふたりの女がうすをひいていると、ひとりを取り去られ、ひとりに残され

るであろう。

- 42: だから、目をさましていなさい。いつの日にあなたがたの主がこられるのか、あなたがたには、わからないからである。
- 43: このことをわきまえているがよい。家の主人は、盗賊がいつごろ来るかわかっているなら、目をさましていて、自分の家に押し入ることを許さないであろう。
- 44: だから、あなたがたも用意をしていなさい。思いがけない時に人の子がかかるからである。
- 45: 主人がその家の僕たちの上に立てて、時に応じて食物をそなえさせる忠実な思慮深い僕は、いったい、だれであろう。
- 46: 主人が帰ってきたとき、そのようにつとめているのを見られる僕は、さいわいである。
- 47: よく言うておくが、主人は彼を立てて自分の全財産を管理させるであろう。
- 48: もしそれが悪い僕であって、自分の主人は帰りがおそいと心の中で思い、
- 49: その僕仲間をたたきはじめ、また酒飲み仲間と一緒に食べたり飲んだりしているなら、
- 50: その僕の主人は思いがけない日、気がつかない時に帰ってきて、
- 51: 彼を厳罰に処し、偽善者たちと同じ目にあわせるであろう。彼はそこで泣き叫んだり、歯がみをしたりするであろう。

(注)赤字の番号が、空中携挙(再臨)に関する記述。マタイ、マルコ、ルカにも同様の記述がある。テサロニケ人への手紙は〈再臨〉に関する記述。また「ヨハネの黙示録」には、地球文明の終末期について、より詳しい内容が預言されていて、「新しい天と地」の記述がある。詳しくは聖書で-。

「ヨハネの黙示録 第 21 章」

- 01: わたしはまた、新しい天と新しい地とを見た。先の天と地とは消え去り、海もなくなってしまった。
- 02: また、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために着飾った花嫁のように用意をととのえて、神のもとを出て、天から下って来るのを見た。
- 03: また、御座から大きな声が叫ぶのを聞いた、「見よ、神の幕屋が人と共にあり、神が人と共に住み、人は神の民となり、神自ら人と共にいまして、
- 04: 人の目から涙を全くぬぐいにとって下さる。もはや、死もなく、悲しみも、叫びも、痛みもない。先のものが、すでに過ぎ去ったからである」。

○マルコによる福音書

第13章

- 01: イエスが宮から出て行かれるとき、弟子のひとりが言った、「先生、ごらん下さい。なんという見事な石、なんという立派な建物でしょう」。
- 02: イエスは言われた、「あなたは、これらの大きな建物をながめているのか。その石一つでもくずされないまま、他の石の上に残ることもなくなるであろう」。
- 03: またオリブ山で、宮にむかってすわっておられると、ペテロ、ヤコブ、ヨハネ、アンデレが、ひそかにお尋ねした。
- 04: 「わたしたちにお話してください。いつ、そんなことが起るのでしょうか。またそんなことがことごとく成就するような場合には、どんな前兆がありますか」。
- 05: そこで、イエスは話しはじめられた、「人に惑わされないように気をつけなさい。
- 06: 多くの者がわたしの名を名のって現れ、自分がそれだと言って、多くの人を惑わすであろう。
- 07: また、戦争と戦争のうわさを聞くときにも、あわてるな。それは起らねばならないが、まだ終りではない。
- 08: 民は民に、国は国に敵対して立ち上がるであろう。またあちこちに地震があり、またききんが起るであろう。これらは産みの苦しみの初めである。
- 09: あなたがたは自分で気をつけていなさい。あなたがたは、わたしのために、衆議所に引きわたされ、会堂で打たれ、長官たちや王たちの前に立たされ、彼らに対してあかしをさせられるであろう。
- 10: こうして、福音はまずすべての民に宣べ伝えられねばならない。
- 11: そして、人々があなたがたを連れて行って引きわたすとき、何を言おうかと、前もって心配するな。その場合、自分に示されることを語るがよい。語る者はあなたがた自身ではなくて、聖霊である。
- 12: また兄弟は兄弟を、父は子を殺すために渡し、子は両親に逆らって立ち、彼らを殺させるであろう。
- 13: また、あなたがたはわたしの名のゆえに、すべての人に憎まれるであろう。しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われる。
- 14: 荒らす憎むべきものが、立ってはならぬ所に立つのを見たならば(読者よ、悟れ)、そのとき、ユダヤにいる人々は山へ逃げよ。
- 15: 屋上にいる者は、下におりるな。また家から物を取り出そうとして内にはいるな。
- 16: 畑にいる者は、上着を取りにあとへもどるな。
- 17: その日には、身重の女と乳飲み子をもつ女とは、不幸である。

- 18: この事が冬おこらぬように祈れ。
- 19: その日には、神が万物を造られた創造の初めから現在に至るまで、かつてなく今後もないような患難が起るからである。
- 20: もし主がその期間を縮めてくださらないなら、救われる者はひとりもないであろう。しかし、選ばれた選民のために、その期間を縮めてくださったのである。
- 21: そのとき、だれかがあなたがたに『見よ、ここにキリストがいる』、『見よ、あそこにいる』と言っても、それを信じるな。
- 22: にせキリストたちや、にせ預言者たちが起って、しるしと奇跡とを行い、できれば、選民をも惑わそうとするであろう。
- 23: だから、気をつけていなさい。いっさいの事を、あなたがたに前もって言うておく。
- 24: その日には、この患難の後、日は暗くなり、月はその光を放つことをやめ、
- 25: 星は空から落ち、天体は揺り動かされるであろう。
- 26: そのとき、大いなる力と栄光とをもって、人の子が雲に乗って来るのを、人々は見るであろう。
- 27: そのとき、彼は御使たちをつかわして、地のはてから天のはてまで、四方からその選民を呼び集めるであろう。
- 28: いちじくの木からこの譬を学びなさい。その枝が柔らかになり、葉が出るようになると、夏の近いことがわかる。
- 29: そのように、これらの事が起るのを見たならば、人の子が戸口まで近づいていると知りなさい。
- 30: よく聞いておきなさい。これらの事が、ことごとく起るまでは、この時代は滅びることがない。
- 31: 天地は滅びるであろう。しかしわたしの言葉は滅びることがない。
- 32: その日、その時は、だれも知らない。天にいる御使たちも、また子も知らない、ただ父だけが知っておられる。
- 33: 気をつけて、目をさましていなさい。その時がいつであるか、あなたがたにはわからないからである。
- 34: それはちょうど、旅に立つ人が家を出るに当り、その僕たちに、それぞれ仕事を割り当てて責任をもたせ、門番には目をさましておれと、命じるようなものである。
- 35: だから、目をさましていなさい。いつ、家の主人が帰って来るのか、夕方か、夜中か、にわたりの鳴くころか、明け方か、わからないからである。
- 36: あるいは急に帰ってきて、あなたがたの眠っているところを見つけるかも知れない。
- 37: 目をさましていなさい。わたしがあなたがたに言うこの言葉は、すべての人々に言うのである」。

○ルカによる福音書 21 章

- 01: イエスは目をあげて、金持たちがさいせん箱に献金を投げ入れるのを見られ、
- 02: また、ある貧しいやもめが、レプタ二つを入れるのを見て
- 03: 言われた、「よく聞きなさい。あの貧しいやもめはだれよりもたくさん入れたのだ。」
- 04: これらの人たちはみな、ありあまる中から献金を投げ入れたが、あの婦人は、その乏しい中から、持っている生活費全部を入れたからである」。
- 05: ある人々が、見事な石と奉納物とで宮が飾られていることを話していたので、イエスは言われた、
- 06: 「あなたがたはこれらのものをながめているが、その石一つでもくずされずに、他の石の上に残ることもなくなる日が、来るであろう」。
- 07: そこで彼らはたずねた、「先生、では、いつそんなことが起るのでしょうか。またそんなことが起るような場合には、どんな前兆がありますか」。
- 08: イエスが言われた、「あなたがたは、惑わされないように気をつけなさい。多くの者がわたし名を名のって現れ、自分がそれだとか、時が近づいたとか、言うであろう。彼らについて行くな。
- 09: 戦争と騒乱とのうわさを聞くとともに、おじ恐れるな。こうしたことはまず起らねばならないが、終りはすぐにはこない」。
- 10: それから彼らに言われた、「民は民に、国は国に敵対して立ち上がるであろう。
- 11: また大地震があり、あちこちに疫病やききんが起り、いろいろ恐ろしいことや天からの物すごい前兆があるであろう。
- 12: しかし、これらのあらゆる出来事のある前に、人々はあなたがたに手をかけて迫害をし、会堂や獄に引き渡し、わたしの名のゆえに王や総督の前にひっぱって行くであろう。
- 13: それは、あなたがたがあかしをする機会となるであろう。
- 14: だから、どう答弁しようかと、前もって考えておかないことに心を決めなさい。
- 15: あなたの反対者のだれもが抗弁も否定もできないような言葉と知恵とを、わたしが授けるから。
- 16: しかし、あなたがたは両親、兄弟、親族、友人にさえ裏切られるであろう。また、あなたがたの中で殺されるものもあろう。
- 17: また、わたしの名のゆえにすべての人に憎まれるであろう。
- 18: しかし、あなたがたの髪の毛一すじでも失われることはない。
- 19: あなたがたは耐え忍ぶことによって、自分の魂を勝ち取るであろう。

- 20: エルサレムが軍隊に包囲されるのを見たならば、そのときは、その滅亡が近づいたとさとりなさい。
- 21: そのとき、ユダヤにいる人々は山へ逃げよ。市中にいる者は、そこから出て行くがよい。また、いなかにいる者は市内にはいってはいけない。
- 22: それは、聖書にしるされたすべての事が実現する刑罰の日であるからだ。
- 23: その日には、身重の女と乳飲み子をもつ女とは、不幸である。地上には大きな苦難があり、この民にはみ怒りが臨み、
- 24: 彼らはつるぎの刃に倒れ、また捕えられて諸国へ引きゆかれるであろう。そしてエルサレムは、異邦人の時期が満ちるまで、彼らに踏みにじられているであろう。
- 25: また日と月と星とに、しるしが現れるであろう。そして、地上では、諸国民が悩み、海と大波とのとどろきにおじ惑い、
- 26: 人々は世界に起ろうとする事を思い、恐怖と不安で気絶するであろう。もろもろの天体が揺り動かされるからである。
- 27: そのとき、大いなる力と栄光とをもって、人の子が雲に乗って来るのを、人々は見るとであろう。
- 28: これらの事が起りはじめたら、身を起し頭をもたげなさい。あなたがたの救が近づいているのだから。
- 29: それから一つの譬を話された、「いちじくの木を、またすべての木を見なさい。
- 30: はや芽を出せば、あなたがたはそれを見て、夏がすでに近いと、自分で気づくのである。
- 31: このようにあなたがたも、これらの事が起るのを見たなら、神の国が近いのだとさとりなさい。
- 32: よく聞いておきなさい。これらの事が、ことごとく起るまでは、この時代は滅びることがない。
- 33: 天地は滅びるであろう。しかしわたしの言葉は決して滅びることがない。
- 34: あなたがたが放縦や、泥酔や、世の煩いのために心が鈍っているうちに、思いがけないとき、その日がわなのようにあなたがたを捕えることがないように、よく注意していなさい。
- 35: その日は地の全面に住むすべての人に臨むのであるから。
- 36: これらの起ろうとしているすべての事からのがれて、人の子の前に立つことができるように、絶えず目をさまして祈っていなさい。
- 37: イエスは昼のあいだは宮で教え、夜には出て行ってオリブという山で夜をすごしておられた。
- 38: 民衆はみな、み教えを聞こうとして、いつも朝早く宮に行き、イエスのもとに集まった。

○テサロニケ人への手紙第一

第4章

- 01: 最後に、兄弟たちよ。わたしたちは主イエスにあってあなたがたに願いかつ勧める。あなたがたが、どのように歩いて神を喜ばすべきかをわたしたちから学んだように、また、いま歩いているとおりに、ますます歩き続けなさい。
- 02: わたしたちがどういう教を主イエスによって与えたか、あなたがたはよく知っている。
- 03: 神のみこころは、あなたがたが清くなることである。すなわち、不品行を慎み、
- 04: 各自、気をつけて自分のからだを清く尊く保ち、
- 05: 神を知らない異邦人のように情欲をほしいままにせず、
- 06: また、このようなことで兄弟を踏みつけたり、だましたりしてはならない。前にもあなたがたにきびしく警告しておいたように、主はこれらすべてのことについて、報いをなさるからである。
- 07: 神がわたしたちを召されたのは、汚れたことをするためではなく、清くなるためである。
- 08: こういうわけであるから、これらの警告を拒む者は、人を拒むのではなく、聖霊をあなたがたの心に賜わる神を拒むのである。
- 09: 兄弟愛については、今さら書きおくる必要はない。あなたがたは、互に愛し合うように神に直接教えられており、
- 10: また、事実マケドニヤ全土にいるすべての兄弟に対して、それを実行しているのだから。しかし、兄弟たちよ。あなたがたに勧める。ますます、そうしてほしい。
- 11: そして、あなたがたに命じておいたように、つとめて落ち着いた生活をし、自分の仕事に身をいれ、手ずから働きなさい。
- 12: そうすれば、外部の人々に対して品位を保ち、ただれの世話にもならず、生活できるであろう。
- 13: 兄弟たちよ。眠っている人々については、無知でいてもらいたくない。望みを持たない外の人々のように、あなたがたが悲しむことのないためである。
- 14: わたしたちが信じているように、イエスが死んで復活されたからには、同様に神はイエスにあって眠っている人々をも、イエスと一緒に導き出して下さるであろう。
- 15: わたしたちは主の言葉によって言うが、生きながらえて主の来臨の時まで残るわたしたちが、眠った人々より先になることは、決してないであろう。

- 16: すなわち、主ご自身が天使のかしらの声と神のラッパの鳴り響くうちに、合図の声で、天から下ってこられる。その時、キリストにあって死んだ人々が、まず最初によみがえり、
- 17: それから生き残っているわたしたちが、彼らと共に雲に包まれて引き上げられ、空中で主に会い、こうして、いつも主と共にいるであろう。
- 18: だから、あなたがたは、これらの言葉をもって互に慰め合いなさい。

第5章

- 01: 兄弟たちよ。その時期と場合とについては、書きおくる必要はない。
- 02: あなたがた自身がよく知っているとおりに、主の日は盗人が夜くるように来る。
- 03: 人々が平和だ無事だと言っているその矢先に、ちょうど妊婦に産みの苦しみが臨むように、突如として滅びが彼らをおそって来る。そして、それからのがれることは決してできない。
- 04: しかし兄弟たちよ。あなたがたは暗やみの中にいないのだから、その日が、盗人のようにあなたがたを不意に襲うことはないであろう。
- 05: あなたがたはみな光の子であり、昼の子なのである。わたしたちは、夜の者でもやみの者でもない。
- 06: だから、ほかの人々のように眠っていないで、目をさまして慎んでいよう。
- 07: 眠る者は夜眠り、酔う者は夜酔うのである。
- 08: しかし、わたしたちは昼の者なのだから、信仰と愛との胸当を身につけ、救の望みのかぶとをかぶって、慎んでいよう。
- 09: 神は、わたしたちを怒りにあわせるように定められたのではなく、わたしたちの主イエス・キリストによって救を得るように定められたのである。
- 10: キリストがわたしたちのために死なれたのは、さめていても眠っていても、わたしたちが主と共に生きるためである。
- 11: だから、あなたがたは、今しているように、互に慰め合い、相互の徳を高めなさい。
- 12: 兄弟たちよ。わたしたちは願います。どうか、あなたがたの間で労し、主にあってあなたがたを指導し、かつ訓戒している人々を重んじ、
- 13: 彼らの働きを思って、特に愛し敬いなさい。互に平和に過ごしなさい。
- 14: 兄弟たちよ。あなたがたにお勧めする。怠惰な者を戒め、小心な者を励まし、弱い者を助け、すべての人に対して寛容でありなさい。
- 15: だれも悪をもって悪に報いないように心がけ、お互に、またみんなに対して、いつも善を追い求めなさい。
- 16: いつも喜んでいなさい。
- 17: 絶えず祈りなさい。

- 18: すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって、
神があなたがたに求めておられることである。
- 19: 御霊を消してはいけない。
- 20: 預言を軽んじてはならない。
- 21: すべてのものを識別して、良いものを守り、
- 22: あらゆる種類の悪から遠ざかりなさい。
- 23: どうか、平和の神ご自身が、あなたがたを全くきよめて下さるように。
また、あなたがたの霊と心とからだを完全に守って、わたしたちの主
イエス・キリストの来臨のときに、責められるところのない者にして下さ
るように。
- 24: あなたがたを召されたかたは真実であられるから、このことをして下さ
るであろう。
- 25: 兄弟たちよ。わたしたちのためにも、祈ってほしい。
- 26: すべての兄弟たちに、きよい接吻をもって、よろしく伝えてほしい。
- 27: わたしは主によって命じる。この手紙を、みんなの兄弟に読み聞かせ
なさい。
- 28: わたしたちの主イエス・キリストの恵みが、あなたがたと共にあるように。

(引用:新約聖書★口語訳版／日本聖書協会)

○考察

▶約 2000 年前にイエス大師が預言された終末期の出来事(概要)

前兆・かつてない艱難➡	天変地異・空中擄挙➡	新天地へ➡
戦争、疫病、飢饉、大地震 国と国、民と民の敵対 恐怖な出来事、天の兆候 不法、不和、愛が冷える キリスト信者への迫害 天使と悪魔の戦い 獣・龍-にせ預言者の邪行 人の右手か額 666 の刻印 エルサレムを軍隊が包囲 ハルマゲドンの戦い ノアの時のような大津波	荒らす憎むべき者が 立つてはならない所に立つ時… 日は暗くなり、月は光を放たず 星は落ち、天体は揺れ動く ➡そのとき 人の子のしるしが天に現れる 大いなる力と栄光とをもって 人の子が天の雲に乗って来る 大いなるラッパの音と共に 御使いたちが選民を呼び集む その日・時は神だけが知る	死んだ信者が復活 生者と共に雲に包ま れ引き上げられ 空中で主に会う 悪魔を投獄・封印 主の千年王国 新しい天と地 神・人と共にいて 死もなく、悲哀も 叫びも、痛みもない 新しい世界に住む

イエスの忠告 人に惑わされないように気をつけなさい。(大患難のその日)人々は山へ逃げよ。目を覚ましていなさい。思いもかけないときに人の子は来る。相互に徳を高めよ。愛し、敬い、互いに平和に過ごしなさい。怠惰な者を戒め、小心な者を励まし、弱い者を助け、寛容でありなさい。善を求め、喜び、感謝し、絶えず祈りなさい。

新しい天と地、空中携拳関連資料

▶宇宙船建造、そして地球脱出

ジョージ・アダムスキー最後の講演記録より

(1965年4月10日／米デトロイト)

他の惑星から訪問者が来るという事実に関して世界中にミステリーが存在する理由は、曲解のためです。恐るべき曲解が訪問者にかかわって発生しています。

UFO問題は純粋に科学的なものなのです。まずそのことを話しましょう。彼らはこの宇宙が創造しているあらゆる個々の動きに対して、特に我々の太陽系と地球の動きに対して我々の目を覚まさせるためにコンタクトをするのです。今日という日は一年前の状態とは違います。物事は変化するのです。原理は同じままで続きますが、その影響や応用は変化し続けます。地球へやって来る宇宙人がだれかを援助しようとしているのなら、いつも新しい情報を伝えるはずです。彼らは人間とコンタクトするために来たのです。その大きな目的は純粋に科学的なもので、地球ばかりでなく太陽系までが変化しつつある実状を伝えることにあるのです。



我々の太陽系は恐ろしい変化を起こしつつあり、それは地球自体よりもはるかに大きな変化でもあります。それが我々地球人ばかりではなく、他の惑星の住民たちをも含む大変動になります。つい先日、だれかが「地球は自転が遅れつつある。太陽系もそうだ。」と言っているのを聞きました。科学で達成された成果に注目すれば、これは真実だということがわかります。

聖書には次のようなイエスの言葉があります。「天とは上を意味する。」空は「天」と呼ばれます。天文学者さえも「天」体について語ります。宇宙の構造は天です。イエスはまず「天」と言い、次に「そして地」と言って、「それらは過ぎ去るだろうが、私の言葉は永遠に滅びることはない。」と述べています。イエスは次のようにも言っています。「新しい天と新しい地がとって代わるだろう。」したがって預言が実現するかもしれないのは、この面です。

また別な、純粋に科学的な面もあります。つまり、もっと急速に流れる生命の

面を私たちに気づかせる面です。彼ら宇宙人はみなさんと同じ人間なのです。

彼らは地球人の知性に挑戦してきました。私たちの知性をはるかに超えたやり方で操縦していたからです。そのために私たちは一種の宇宙開発計画を持つことになりました。これは純粋に科学的なものです。

この宇宙計画は二面を持っています。まず第一に、それは私たちをして、地球の彼方を考えさせます。第二に、それはこの文明を救うものにほかならないと考えられるのです。たとえば、人間がヒューマニティーというものに対して、お金のために利用するのではなくて、それに本当に関心を持つならば、それから脱却できるでしょう。

宇宙船団は地球で建造される必要があります。私たちはその技術を持っています。それはすでに宇宙人によって我々に与えられているのです。彼ら宇宙人は我々が彼らの道をたどれるように、そして貧弱な経済力で地球を破滅しないで、この文明を教えと警告を発するためにのみ来ているのです。

私たちは我々の太陽系のみとコンタクトしています。まだまだ数百万の太陽系が宇宙に存在しています。もし我々が、我々の太陽系から進出できるようになれば、他の太陽系からこちらの太陽系へやって来て、どれかの惑星に到達し、トラブルを起こすでしょう。彼らは必ずしも「天使」ではありません。地球人のすべてが天使でないのと同様です。

しかし、宇宙人が来る別な理由もあります。我々が核戦争を始めるならば—という問題です。…人間が…一千発の核爆弾を落とすと地球は真二つに裂けるでしょう。これは太陽系にも影響を及ぼすでしょう。あらゆる太陽系は完全なバランスを保っています。だからそれらはうまく運行しているのです。もしこれらの惑星群の。一つを軌道から叩き出したとすれば、アンバランスな状態となり、それは他の惑星群も粉々になることを意味します。これが最重要です。これが核爆弾が落とされた頃に宇宙人が来た理由です、核爆弾が開発された頃に—。

彼らが戦争を中止させられると思われる唯一の時は最後の戦争になりそうな時です。何故なら地球が破壊されるということは、彼らの惑星も破壊されることになるからです。以上が、宇宙人が地球へやって来る真の主な理由です。彼らは私たちに何も押しつけようとはしませんでした。私たちは彼らの生き方を採用し、地球上の私たちの運命を改善すればよいのです。

私たちの探知の結果ついに我々の太陽系は変化しつつあるということがわかりました。この太陽系ではあらゆる惑星が生命を持っているのです。二年少々前、天文学者は太陽の極が変化したと伝えました。これは大変です。それ以来、この変化は続いています。

彼ら宇宙人は宇宙空間にいて、宇宙船に乗り、地球ばかりではなく、太陽系内に発生する現象を見るために、彼らの惑星群をも見つめているのです。これが彼らが見つめている目標なのです。

その結果、彼らは別の太陽系内に「新しい天と新しい地(惑星)」を見つけました。これは我々の太陽系から遠くはありません。彼らはすでにその太陽系へ沢山の人々、すなわち志願者を輸送しています。彼らはこの地球からも人々をそこへ送っています。蒸発してしまった人々のすべてが金星や火星へ行ったとは限りません。別な太陽系へ行った人もあるのです。

私たちの太陽系がバランスを失って、危険が生じていることを彼ら宇宙人が発見している事実を考えてごらんください。彼ら惑星人は同胞たちを大規模に新しい太陽系へ移動させ始めようとしているのです。

彼らは多数の宇宙船を持っていますが、そのいずれも同胞を新しい太陽系へ運ぶのに必要とするでしょう。それが終了したあと、もし時間の余裕があれば、彼らは地球へやって来て、人種や信念の差別なしにあらゆる人を連れていくかもしれません。しかし、これは保証できないことです。

私たちに今与えられている最上の保証は、地球人自身で宇宙船を建造することです。戦争目的のために作ったにしても、大気圏外へ人工衛星を打ち上げるのに利用しています。だからそうした宇宙開発技術は両道に応用できます。

それで、地球人はそうした宇宙船を作るべきであって、そうすれば必要な時が来たとき、宇宙人は地球へ知らせに来るでしょう。

宇宙開発計画は二通りに役立ちます。まず第一に、人々をこの仕事に従事させて戦争を回避できます。第二に、太陽系に危険が生じた場合、その宇宙船を利用して同胞を輸送できます。この計画は非常に建設的なものです。

一人の青年が私に語りました。「私は地球を出て金星または他の惑星へ行きたい」と。そういう人が沢山います。しかし地球に住めないというようなことで、どうして他の惑星に住めるでしょう。…まずこの地球で同胞と共に生きることを学びなさい。人間対人間として生きることを学びなさい。みんながそこで生きているからです。(UFOと宇宙23/1977・4より要約)



© AdamskiFoundation.com

アダムスキー氏が撮影した、宇宙母船から離船するスカウトシップ

▶近年のある情報〈宇宙レスキュー隊 2023〉

トランプ元大統領は宇宙人と会談している

●宇宙司令官とツーショット

「……トランプ元大統領は、すでに宇宙人と会談を行っています」

二〇二三年六月八日タッカーは驚愕コメントを発した。

衝撃暴露は続く。

「……トランプ元大統領は、すでに宇宙人との会議を行っています」
「一気にエイリアン情報開示に向かうでしょう」
「さらに、ブーチン大統領も宇宙人と握手をしています」
（タッカー）
まさか……と、耳を疑う。しかし、トランプと「宇宙人」らしき人物とのツーショット写真も公開されている。

これらの情報源は米軍関係者による内部告発という。

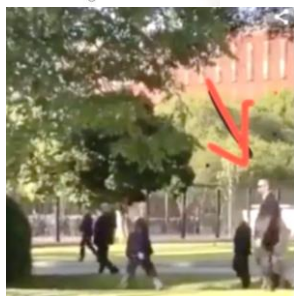
この「歴史的会談」が行われたのは二〇二三年四月一六日。
このイギリスのカメラロットで開催された。そこにはトランプ元大

統領を守る巨人宇宙軍、さらに宇宙軍の守護者ヴァリアントール司令官などが列席した。

さらに、大統領専用機エアホースワンを守るUFOの映像なども公開されている。

この宇宙人ヴァリアントール司令官は身長が3mもの巨人。その漏洩映像には驚かされる。

NASAは何かを隠している2（著：船瀬俊介）より



※写真は SNS で流出したもの